

校異源氏物語・うつせみ

ねられたまはぬまゝには我はかく人ににくまれてもならはぬをこよひなむはしめてうしとよをおもひしりぬれははつかしくてなからふましようこそおもひなりぬれなどのたまへはなみたをさへこほしてふしたりいとらうたしとおほすてさくりのほそくちいさきほどかみのいとなかゝらさりしけはひのさまかよひたるもおもひなしにやあはれなりあなちにかゝつらひたとりよらむも人わろかるへくまめやかにめさましとおほしあかしつゝれいのやうにものたまひまつはさす夜ふかういてたまへはこのこはいといとをしくさうゝしと思ふ女もなみ

くゝならすかたはらいいたしと思ふに御せうそこもたえてなしおほしこりにけると思にもやかてつれなくてやみ給なましかはうからましゐていとをしき御ふるまひのたえさらむもうたてあるへしよきほどにかくてとちめてんとおもふものからたゝならすなめかちなりきみは心つきなしとおほしなからかくてはえやむましう御こゝろにかゝり人わろくおもほしわひてこきみにいとつらうもうれたうもおほゆるにしゐておもひかへせと心にしましたかはすくるしきをさりぬへきおりみてたいめむすへくたはかれとのたまひわたれはわつらはしけれとかゝるかたにてもものたまひまつはすはうれしうおほえけりおさなき心地にいかならんおりとまちわたるにきのかみくにゝくたりなとして女とちのとやかなるゆふやみのみちたとくゝしけなるまきれにわかくるまにてゐてたてまつるこのこもおさなきをいかならむとおほせとさのみもえおほしのとむましければさりけなきすかたにてかとなとさゝぬさきにといそきおはす人みぬかたよりひきいておろしたてまつるわらはなれはとのゐ人なともことにみいれついせうせず心やすしひむかしのつまとにたてたてまつりてわれはみなみのすみのまよりかうしたゝきのゝしりていりぬこたちあらはなりといふなりなそかうあつきにこのかうしはおろされたととへはひるよりにしの御かたのわたらせ給てこうたせたまふといふさてむかひるたらむをみはやとおもひてやをらあゆみいてゝすたれのはさまにいり給ぬこのいりつるかうしはまたさゝねはひまみゆるによりてにしさまにみとをし給へはこのきはにたてたるひやう風はしのかたをしたゝまれたるにまきるへき几帳なともあつけければにやうちかけていとよくみいれら

る火ちかふともしたりもやのなかはしらにそはめる人やわか心かくるとまつめ
とゝめたまへはこきあやのひとへかさねなめりなにゝかあらむうへにきてかし
らつきほそやかにちいさき人のものけなきすかたそしたるかほなとはさしむか
ひたらむ人などにもわざとみゆましようもてなしたりてつきやせゝにていたう
ひきかくしためりいまひとりひむかしむきにてのこる所なくみゆしろきうす
物のひとへかさね二あひのこうちきたつものないかしろにきなしてくれなるの
こしひきゆへるきはまてむねあらはにはうそくなるもてなしなりいとしろうお
かしけにつふゝとこゑてそゝろかなる人の頭つきひたいつきものあさやかに
まみくちつきいとあひきやうつきはなやかなるかたちなりかみはいとふさやか
にてなかくはあらねとさかりはかたのほときよけにすへいとねちけたる所な
くおかしけなる人とみえたりむへこそおやのよになくは思らめとおかしくみ給
心ちそなをしつかなるけをそへはやとふとみゆるかとなきにはあるましこうち
はてゝけちさすわたりこゝろとけにみえてきはゝとさうとけはおくの人はい
としつかにのとめてまち給へやそこは持にこそあらめこのわたりのこうをこそ
なといへといてこのたひはまけにけりすみの所いてゝとおよひをかゝめてと
をはたみそよそなとかさふるさまいよのゆけたもとゝゝしかるましようみゆす
こししなをくれたりたとしへなくゝちおほひてさやかにみせねとめをしつけ
たまへれはをのつからそはめもみゆめすこしはれたる心ちしてはななともあさ
やかなるところなふねひれてにほはしきところもみえすいひたつれはわろきに
よれるかたちをいというもてつけてこのまされる人よりは心あらむとめとゝ
めつへきさましたりにきわゝしうあひきやうつきおかしけなるをいよゝほこ
りにうちとけてわらひなとそほるれはにほひおほくみえてさるかたにいと
おかしき人さまなりあはつけしとはおほしなからまめならぬ御こゝろはこれもえ
おほしはなつましかりけりみたまふかきりの人はうちとけたる世なくひきつく
ろひそはめたるうはへをのみこそみ給へかくうちとけたる人のありさまかいま
みなどはまたし給はさりつることなれはなに心もなうさやかなるはいとおしな
からひさしうみたまはまほしきにこきみいてくる心ちすれはやをらいて給ぬわ
たとのゝとくちによりゐたまへりいとかたしけなしとおもひてれいならぬ人侍
てえちかふもより侍らすさてこよひもやかへしてんとするいとあさましようから
うこそあへけれとのたまへはなとてかあなたにかへり侍りなはたはかり侍なん
ときこゆさもなひかしつへきけしきにこそはあらめわらはなれとものゝこゝろ
はへ人のけしきみつへくしつまれるをとおほすなりけり五うちはてつるにやあ

らむうちそよめく心ちしてひとくゝあかるゝけはひなとす也わか君はいつくにおはしますならむこのみかうしはさしてんとてならすなりしつまりぬなりいてさらはたはかれとの給このこもいもうとの御こゝろはたはむどころなくまめたちたれはいひあはせむかたなくて人すくなゝらんおりにいれたてまつらんと思なりけりきのかみのいもうともこなたにあるか我にかいまみせさせよのたまへといかてかさは侍らんかうしには几帳そへて侍ときこゆさかしされともおかしくおほせとみつとはしらせしいとおしとおほして夜ふくることの心もとなさをの給こたみはつまとをたゝきているみな人くゝしつまりねにけりこのさうしくちにまろはねたらむかせふきとをせとてたゝみひろけてふすこたちひむかのひさしにいとあまたねたるへしとはなちつるはらはへもそなたに入てふしぬれはとはかりそらねして火あかきかたにひやう風をひろけてかけほのかなるにやをら入たてまつるいかにそおこましき事もこそとおほすにいとつゝましかれとみちひくまゝにもやの木丁のかたひらひきあけていとやをらいり給とすれとみなしつまれるよの御そのけはひやはらかなるしものとしるかりけり女はさこそわすれ給をうれしきにおもひなせとあやしくゆめのやうなることをこゝろにはなるゝおりなきころにて心とけたるいたにねられすなむひるはなかめ夜はねさめかちなれは春ならぬこのめもいとなくなけかしきに五うちつる君こよひはこなたにといまめかしくうちかたらひてねにけりわかき人はなにこゝろなくいとうまとろみたるへしかゝるけはひのいとかうはしくうちにほふにかほをもたけたるにひとへうちかけたる几帳のすきまにくられとうちみしろきよるけはひいとしるしあさましくおほえてともかくも思わかれすやをらおきいてゝすゝしなるひとへをひとつきてすへりいてにけり君はいり給てたゝひとりふしたるをこゝろやすくおほすゆかのしもに二人はかりそふしたるきぬをゝしやりてより給へるにありしけはひよりはものくゝしくおほゆれとおもほしうもよらすかしいきたなきさまなとそあやしくかはりてやうくみあらはし給てあさましくこゝろやましかれと人たかへとたとりてみえんもおこましくあやしとおもふへしほいの人をたつねよらむもかはりのかるゝこゝろあめれはかひなふおこにこそおもはめとおほすかのおかしかりつるほかけならはいかゝはせむにおほしなるもわろき御こゝろあさゝなめりかしやうくめさめていとおほえすあさましきにあきたるけしきにてなにのこゝろふかくいとおしきようゑもなし世中をまたおもひしらぬほとよりはされはみたるかたにてあえかにもおもひまとはすわれともしらせしとおほせといかにしてかゝることそとのちに思め

くらさむもわかためにはことにもあらねとあのつらき人のあなかちになをつゝ
むもさすかにいとをしければたひくの御かたゝかへにことつけ給しさまをい
とかういひなし給ふたとらむ人は心えつへけれとまたいとわかき心地にさこそ
さしすきたるやうなれとえしも思わかすにくしとはなけれと御心とまるへきゆ
へもなき心ちしてなをかのうれたき人の心をいみしくおほすつくにはいまき
れてかたくなしとおもひゐたらむかくしうねき人はありかたきものをとおほす
しもあやにくにまきれかたふおもひいてられ給この人のなま心なくわかやかな
るけはひもあはれなれはさすかになさけくしくちきりをかせ給人しりたるこ
とよりもかやうなるはあはれもそふ事となむ昔人もいひけるあひおもひたまへ
よつゝむことなきにしもあらねはみなから心にもえまかすましくなんありける
またさるへき人くもゆるされしかしとかねてむねいたくなん忘てまちたまへ
よなどなをくしくかたらひ給人の思侍らんことはつかしきになんえきこえ
さすましきとうらもなくいふなへて人にしらせはこそあらめこのちいさきうへ
人につたへてきこえんけしきなくもてなし給へなといひをきてかのぬきすへし
たるとみゆるうす衣をとりていて給ぬこ君ちかふふしたるをおこし給へはうし
ろめたうおもひつゝねければふとおとろきぬとをやをらしあくるにおいたる
こたちのこゑにてあればたそとおとろくしくとふわつらはしくてまるそとい
らふ夜中にこはなそとありかせ給とさかしかりてとさまへくいとにくゝてあら
すこゝもとへいつるそとて君ををしいてたてまつるにあかつきちかき月くまな
くさしいてゝふと人のかけみえければまたおはするはたそとゝふ民部のおもと
なめりけしうはあらぬおもとのたけたちかなといふたけたかき人のつねにわら
はるゝをいふ也けりおい人これをつらねてありきけるとおもひていまたゝ今た
ちならひ給ひなむといふくわれもこのとよりいててくわひしければえはたを
しかへさてわたとのゝくちにかひそひてかくれたち給へはこのおもとさしよ
りておもとはこよひはうへにやさふらひ給つるおとゝひよりはらをやみていと
わりなければしもに侍つるを人すくななりとてめしゝかはよへまうのほりしか
となをえたふましくなむとうれふいらへもきかてあなはらくゝいまきこえんと
てすきぬるにからふしててたまふなをかるありきはかるくしくあやしか
りけりといよくおほしこりぬへしこ君御くるまのしりにて二条院におはしま
しぬありさまの給ひておさなかりけりとあはめ給てかの人のこくろをつまはし
きをしつゝうらみ給いとをしてもものもえきこえすいとふかうにくみ給へかめ
れは身もうくおもひはてぬなとかよそにてもなつかしきいらへはかりはし給ま

しき伊与の介におとりけるみこそなと心つきなしとおもひてのたまふありつる
こうちきをさすかに御そのしたにひきいれておほとこのこもれりこ君をおまへに
ふせてよろつにうらみかつはかたらひ給あこはらうたけれとつらきゆかりにこ
そえおもひはつましけれとまめやかにのたまふをいとわひしと思たりしはしう
ちやすみ給へとねられ給はす御すゝりいそきめしてさしはへたる御ふみにはあ
らてたゝうかみにてならひのやうにかきすさひたまふ

うつせみのみをかへてける木のもとになを人からのなつかしきかなとかき
たまへるをふところにひき入てもたりかの人もいかにおもふらんといとをしけ
れとかたゝおもほしかへして御ことつけもなしかのうす衣はこうちきのいと
なつかしき人かにしめるをみちかくならしてみるたまへりこ君かしこにいきた
れはあねきまちつけていみしくの給ふあさましかりしにとかうまきはして
も人のおもひけむことさり所なきにいとむわりなきいとかう心おさなきをか
つはいかにおもほすらんとてはつかしめ給ひたりみきにくるしう思へとかの御
てならひとりいてたりさすかにとりてみ給かのもぬけをいかに伊勢をのあまの
しほなれてやなと思もたゝならすいとよろつにみたれてにしの君も物はつかし
き心ちしてわたり給にけりまたしる人もなきことなれば人しれすうちなかめて
ゐたりこきみのわたりありくにつけてもむねのみふたかれと御せうそこもなし
あさましと思ひうるかたもなくてされたる心にもあはれなるへしつれなき人
もさこそしつむれいとあさはかにもあらぬ御けしきをありしなからのわか身な
らはととり返すものならねとしのひかたければこの御たゝうかみのかたつかた
に

うつせみのはにをく露の木かくれてしのひゝにぬるゝそてかな